

昨年までは国際的に種々の分野でグローバルスタンダードを求めて、政治、経済および科学が活気を呈していたことは記憶に新しい。しかし、北京のオリンピックが終わると金メダル獲得に沸いた本邦と欧米において、リーマンブラザーズの倒産が引き金になり、ドミノ式連鎖反応で世界中が恐慌状態を呈するようになった。中国の経済成長にブレーキがかかり、金融危機によるエリザベス女王の 66 億円の損出などが紙面を賑わせたが、この影響で北京の国際消化器外科学会が急遽中止となった。前代未聞の出来事である。

このような社会の混乱の中で、最も身近なところで医療制度崩壊が叫ばれ、メディアは煽るばかりで一向に改善の兆しがない。厚生労働大臣の孤軍奮闘振りは理解できるが、笛吹けど人動かず、国民の不安は募るばかりである。先日も脳血管障害を伴った妊婦の“盪回し”と病院の対応のまずさを非難するニュースばかりで、医療者に対する風当たりが強い。

数か月前に救急医療の特番を組み、救急医の密着取材でその忙しさを認め、救急医が疲弊するほど自分達の骨身を削って貢献する姿が報道された。そこで各社とも今後、“盪回し”という言葉を使うのはやめましょうという共同認識であったが、日本人の“喉元過ぎれば暑さ忘れる”特性か、また“盪回し”が紙面を駆けめぐった。リーマンブラザーズの破綻による経済恐慌の煽りなのか、これでは医療崩壊の改善も遠のくばかりである。医療崩壊の改善は国民、医師（学会）および政府・行政が三位一体とならなければ、改善という到達目標に達しないと考えている。

国民は日本のアクセスのよい医療の現状、すなわち国民皆保険制度下の優れた環境をよく理解し、医療は 100% 完全ではないこと、また量から質に転換した医療、特に内視鏡下手術には高額な費用がかかることを理解してほしい。医師（医学会）は国民に対する医療の透明性を維持し、理解しやすい専門医制度を確立し、IT を医療に積極的に導入することにより国民に安心・安全な医療を提供することに、そして政府・行政は医療費削減を撤廃し、省庁が隔壁をはずして、卒前・卒後の医師教育の充実をはかることに最大の努力を払う必要がある。

さて、社会が混沌としている中で、IT を活用した先進医療、特に内視鏡外科手術機器の開発や特別の発想に基づいた NOTES などの発展は目を見張るばかりである。

このような内視鏡外科の明るい兆しとともに、ノーベル賞受賞のニュースはわれわれを勇気付ける。三人のノーベル物理学賞、南部、小林および益川の三氏と、化学賞の下村氏である。規模は異なるが日本内視鏡外科学会でも本年より「伊藤賞」に加え、新たに「大上賞」が設立され、岩手医科大学の佐々木章先生が受賞された。これは内視鏡外科の新時代を卓越したアイディアとその情熱で築き上げた故大上正裕先生の業績を称えた賞である。この設立は彼を知るすべての内視鏡外科医が同意してくれたと信じている。

天上であの人懐こい笑顔で「御主、元氣か」と喜んでいることだろう。

(北島政樹)

日本内視鏡外科学会雑誌

(第 13 巻 第 6 号) 2008 年 12 月 15 日発行・隔月刊

Journal of Japan Society for Endoscopic Surgery (Tokyo)

1 部定価：会員には毎号送付されます。その他については、1 部定価 2,940 円（本体 2,800 円 + 税 5%）となります。

2008 年 年々め予約購読料：17,160 円（税込）（配送料：医学書院負担）

編集・発行：日本内視鏡外科学会（代表：北島政樹）

〒162-0802 東京都新宿区改代町 26-1-B03 有限責任中間法人学会支援機構内

（☎ 03-5206-6007 Fax 03-5206-6008 担当：佐々木） <http://www.jses.org>

Published by Japan Society for Endoscopic Surgery, 26-1-B03 Kaidaicho Shinjuku-ku, Tokyo, 162-0802, Japan

©2008, Printed in Japan

発 売：株医学書院（代表：金原 優）（本誌担当：阿部、田村、中田） <http://www.igaku-shoin.co.jp/>

<http://www.igaku-shoin.co.jp/mag/jses/>

〒113-8719 東京都文京区本郷 1-28-23（振替口座 00170-9-96693 番）

本誌編集室直通 ☎ 03-3817-5707 (Fax 03-3815-7802 E-mail: jses@igaku-shoin.co.jp)

販売部直通 ☎ 03-3817-5659・5660 (Fax 03-3815-7804)

印刷所 横山印刷株 ☎ 03-3622-6161 (Fax 03-3625-1591)

広告申込所 (有文京メディカル ☎ 03-3817-8036 (Fax 03-3817-8044))

本誌の内容を無断で複写・複製・転載すると、著作権・出版権の侵害となることがありますのでご注意ください。

●原著

MRI による中肝静脈と胆嚢間の距離に関する検討

—腹腔鏡下胆嚢摘出術における大量出血回避を目指して……………大上博章・他 高砂市民病院外科

●症例報告

腹腔鏡補助下に整復しえた子宮広間膜裂孔ヘルニアの 1 例……………森内博紀・他 西諫早病院外科

特発性大網捻転症に対し腹腔鏡下切除術を行った 1 例……………谷口和樹・他 中野総合病院外科

Hand-assisted laparoscopic surgery : HALS 下に脾尾部合併脾臓摘出術

を施行した脾門部動脈瘤の 1 例……………楠部潤子・他 広島大学大学院先進医療開発科学講座外科学
迷入クリップを核とした遺残胆嚢結石症に再度腹腔鏡下手術を施行した 1 例

……………上野 剛・他 岡山労災病院外科

腹腔鏡下胆嚢摘出術を施行した胆嚢捻転症の 1 例……………大野 玲・他 中野総合病院外科

二期的手術による 2 ポート HALS 法が有用であった脾彎曲部横行結腸癌完全閉塞の 1 例

……………田中 彰・他 東海大学八王子病院外科

腹腔鏡下に修復した高齢者白線ヘルニアの 1 例……………川野雄一郎・他 独立行政法人国立病院機構宮崎病院外科

腹腔鏡下に切除した全内臓逆位を伴った S 状結腸癌の 1 例……………小林健司・他 松浪総合病院外科

腹腔鏡下に切除した胃 Glomus 腫瘍の 1 例……………村上慶洋・他 北見赤十字病院外科

内視鏡的整復後、腹腔鏡下胃固定術を行った胃軸捻転症の 1 例……………細田 桂・他 大田原赤十字病院外科

食道静脈瘤を伴った胃癌に対する腹腔鏡下胃切除術の 1 例……………伊藤勝彦・他 成田赤十字病院外科

腹腔鏡下に切除した卵管瘤腫の 1 例……………徳毛誠樹・他 香川県立病院外科

腹腔鏡下胆嚢摘出術中に副肝管を損傷した 1 例……………北村雅也・他 石心会川崎幸病院消化器病センター外科

腹腔鏡下回盲部切除術を行った虫垂間膜脂肪組織炎の 1 例……………玉森 豊・他 大阪市立総合医療センター消化器外科

●連載

内視鏡外科手術室訪問 第 3 回……………松田公志・他 関西医科大学校方病院泌尿器科